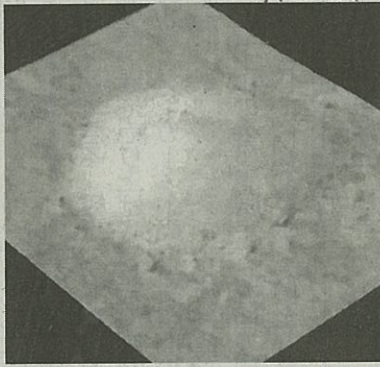


医薬品合成向け 亜鉛触媒を開発

大 九
6/10日(27)

九州大学大学院薬学
研究の大嶋孝志教授
らは、医薬品などの合
成用の固体亜鉛触媒を
開発した。医薬成分な
どの複雑な化合物につ
いて、選択的にエステ
ル合成反応を起こせ

る。実際に抗ウイルス
薬の合成に成功した。
触媒を反応カラム
(筒)に固定して、医
薬品を連続的に合成す
る「フロー合成」の触
媒としての利用を提
案。2年内の実用化を



目指す。
亜鉛触媒でエステル
合成反応を
促進させる。亜鉛がエ
ステルとアルコールの

開発した固
体亜鉛触媒
(九大提
供)

分子とアル
コール分子
を結合させ
るエステル
合成反応を

両方の分子を活性化さ
せるため反応効率が高
い。
この亜鉛触媒を安価
なポリスチレン樹脂に
固定し、再利用できる
ようにした。実験では
5回以上反応を繰り返
せることを確認した。
従来は亜鉛触媒が溶媒
に溶け、触媒の回収が
難しかった。

アミドなど、アルコ
ールに比べて反応性の
高い分子が混ざってい
ても選択的にエステル
と反応させる。従来の
触媒はエステルのみを
活性化していた。医薬
成分はアミドなど複数